

とく  
徳

ほう  
朋

まるごと自分自身なのだと言える智慧<sup>ちえ</sup>をいただく

延塚 知道



のぶつか ともみち  
1948—現在  
福岡県生まれ。  
大谷大学名誉教授、真宗  
大谷派昭光寺住職

もう自暴自棄<sup>じぼうじき</sup>になって、死んでしまおうと思っていたけれども、仏教の教えを生きている人に  
に遇って、初めてこの先生のようになりたいたと思いました。それまでは世間で褒められるよう  
な者になりたいたと思っていましたし、何事もよくできて、出来ればお金持ちになりたいたと思っ  
ていました。自分がなれないものばかりを望んで自暴自棄<sup>じぼうじき</sup>になっていたのです。けれども先生  
の教えや生き方を見て、私が本当になりたいたものは、金持ちや能力のあるものではなくて、本  
当に自分自身になることなのだ<sup>ちえ</sup>と教えられたのです。いいところも悪いところもまるごと自分  
自身なのだ<sup>ちえ</sup>と言えるものになることです。それさえできれば、どんな人生であっても引き受け  
て生きていけると思ったのです。このままで、いいところも悪いところもまるごと自分自身だ  
と言える大きな智慧<sup>ちえ</sup>をいただくこと。世間的にえらい人になってお金がたくさん入るようにな  
るのではなく、落ちこぼれなら落ちこぼれのままで、まるごと自分自身なのだ<sup>ちえ</sup>と言えるような  
ものになることです。世間で褒められるような人になるのが仏教の教えではなく、そのままで  
私なのだ<sup>ちえ</sup>と自分自身に手を合わせていけるようなものになること、それが仏教です。私は世間

で金持ちになったり有名になったり、褒められるようなものになりたいと思っていたけれど、仏教によって、本当になりたかったのは、自分自身なのだということを教えられたのです。

どんなに貧<sup>まず</sup>しくてもこの全体が私自身であり、自分の人生のいいところも悪いところも全部私自身なのだと言えた時、初めてこの人生が完成するのだ。落ちこぼれても能力がなくても、このままで、いいところも悪いところも全部仏さまにいただいた私自身なのだと言うことが出来たら、それでその人の人生は完成なのだと教えられて、初めてもしかしたら食えないかもしれないけど、それでも私の人生なんだ。そういう道を仏教によって恵まれ、教えられていったのです。



(『今、いのちがあなたを生きている』)

私が思うに仏教とは人生においてどんな境遇<sup>きょうぐう</sup>に投げ出されても、引き受けて最後まで生きていけるという教えではないかと思えます。(哲弘



この「徳朋」<sup>とくほう</sup>は仏教を拠<sup>よ</sup>り所としている方々の言葉に直<sup>じか</sup>に触れ、この身で感じる事を願いとして毎月作成しています。多少難しい表現もあるかと思いますが、気にせず読んでみて下さい。